

「簡潔な意見」の積み重ねが長い作文になる。1つのことを薄めて長くするのではない。			
教案番号	07	対象	中学生
分野	心理・経理	タイトル	救急車の利用の有料化
時間	4～6人で50分		
指導概要	4つの資料の特徴とそこから推測できることをまとめ、その結果から救急車の利用を有料化すべきかどうかを文章化する。		

【1】授業の流れ

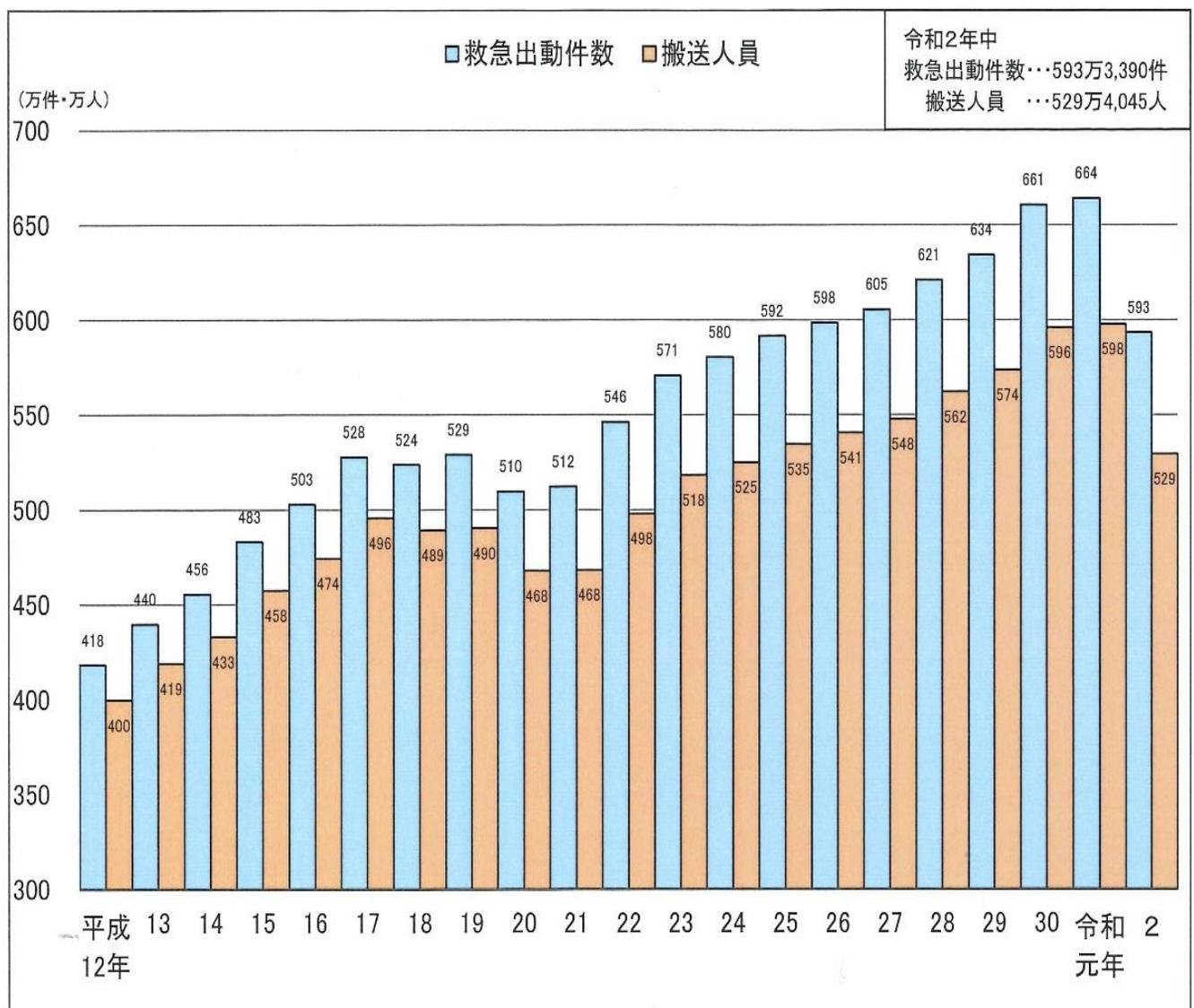
具体的活動内容	教材・教具
<p>1. 課題把握</p> <p>①救急出動件数・搬送人員の推移のグラフを見て、年々、増加傾向にあることを知らせる。</p> <p>②令和2年には減少したが、これは何か特別の原因があったのか、あったとしたら何か。その原因がなかったとしたら今後も減少していくと考えてよいのかを討論する。</p> <p>③平成25年ごろに救急車の利用について有料化すべしという意見が強まったことを伝え、本時は「有料化すべきかどうか」を、資料を基に作文することを伝える。</p>	<p>プリント①</p> <p>図1</p>
<p>2. 資料読み取り</p> <p>①②事故種別の搬送人員の推移のグラフから、急病人の割合が増え、交通事故の割合が減っていることに気づかせる。</p> <p>②どんな病気やケガで搬送されたのかを表す③のグラフから、中傷・軽傷が多いことに気づかせ、軽症で救急車を呼ぶ人がいることを問題視させる。</p> <p>③年利別構成を表すグラフ④から、高齢者の占める割合が年々増加していることに着目させる。全体数も増えているので割合だけでなく実数も増えていることに気づかせる。</p> <p>しかし、高齢者だけが利用しているわけではないことに注意させる。</p>	<p>図2</p> <p>図3</p> <p>図4</p>
<p>3. 作文</p> <p>①これらの資料からメモを基に「救急車の利用を有料化した方がよいかどうか」自分の考えを文にまとめる。</p>	<p>プリント②</p> <p>原稿用紙</p> <p>令和2年資料 総務省消防庁</p>

【2】次ページより教材例を提示（生徒用に続き、指導者用を掲載）

1 下のグラフのように救急車の利用が増加していることが問題となり、数年前に「救急車を有料化した方がよい」という議論が起きました。あなたならどう考えるか、他のグラフを参考に自分の意見をまとめなさい。

*資料は「令和2年中の救急出動件数等（速報値）の公表」消防庁より

図1 救急自動車による救急出動件数及び搬送人員の推移



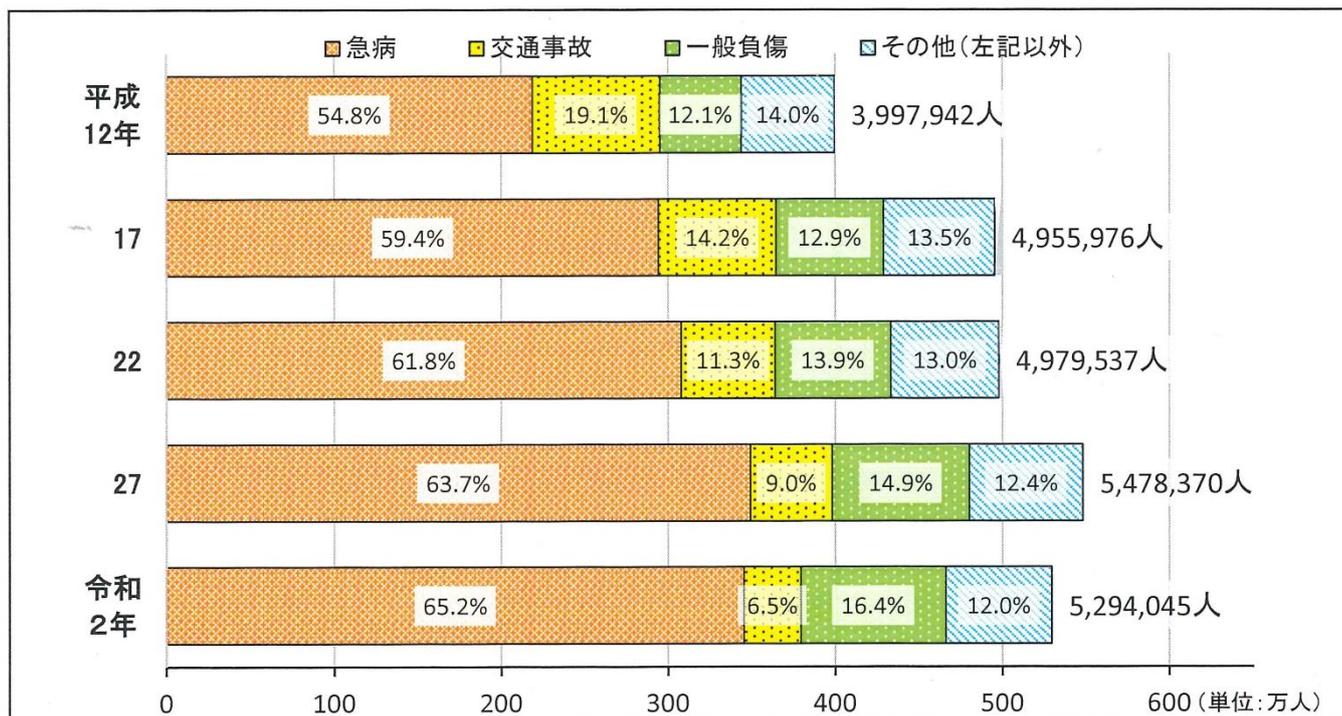
考えるヒント ①まず全体の傾向を大まかにとらえよう。

②令和2年に出動件数・搬送人員ともに減少しているのはなぜか。

ちなみに、平成20・21年に減少したのは消防庁が適正利用を呼びかけた成果だと考えられている。ん？「適正利用」ってどういうこと？

③出動件数と搬送人員数とに分けて集計しているのはなぜか。

図2 事故種別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移



※ 割合の算出に当たっては、端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合がある。

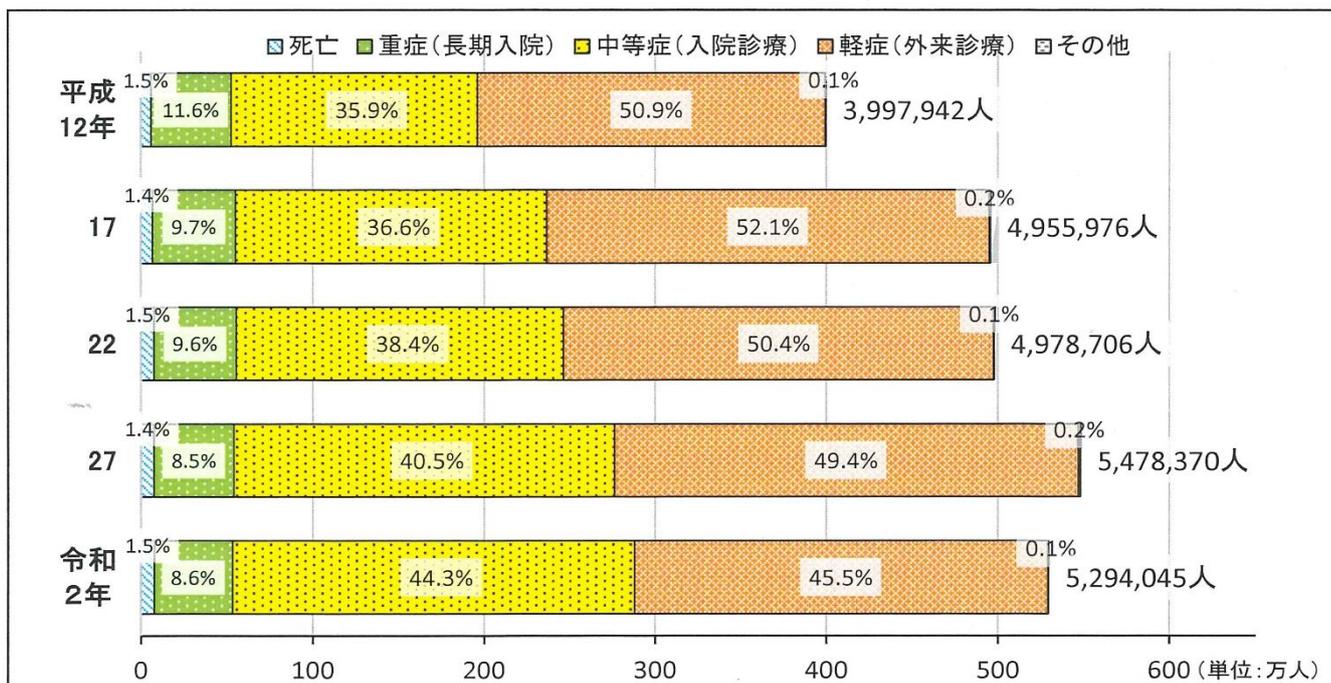
* その他には、医師の移動や機材の搬送などが含まれる。

考えるヒント ①全体を見て、何が多いか。それはどの程度を占めているか。

②推移を見て、増えているもの・減っているものは何か。

その原因は何だと推測されるか。

図3 傷病程度別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移



1 割合の算出に当たっては、端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合がある。

2 傷病程度の定義

死亡 : 初診時において死亡が確認されたもの

重症(長期入院) : 傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

中等症(入院診療) : 傷病程度が重症または軽症以外のもの

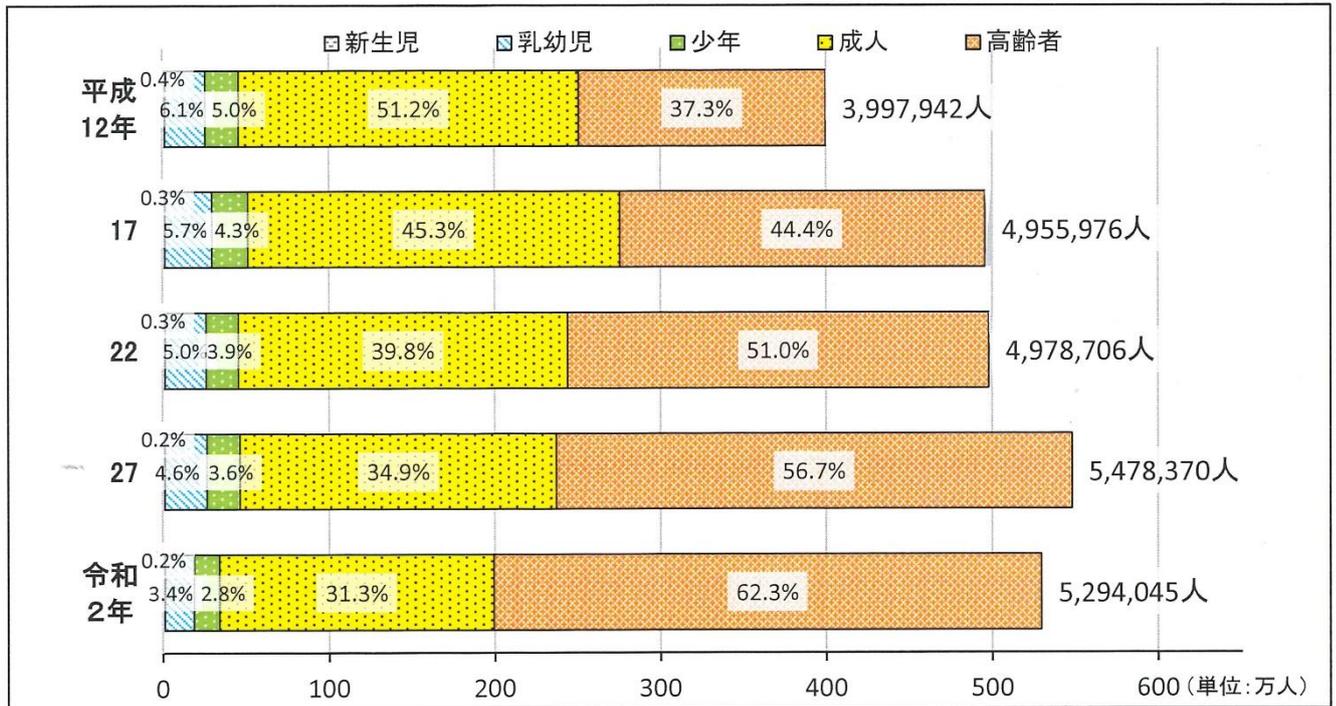
軽症(外来診療) : 傷病程度が入院加療を必要としないもの

その他 : 医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、もしくはその他の場所に搬送したものの

考えるヒント ①全体を見て、何が多いか。それはどの程度を占めているか。

②割合を見て意外に感じる事・理解に苦しむことはないか。

図4 年齢区分別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移



- 割合の算出に当たっては、端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合がある。
- 年齢区分の定義
 新生児：生後28日未満の者
 乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者
 少年：満7歳以上満18歳未満の者
 成人：満18歳以上満65歳未満の者
 高齢者：満65歳以上の者
- 東日本大震災の影響により、平成22年は陸前高田市消防本部のデータを除いた数値で集計している。（図10も同じ）

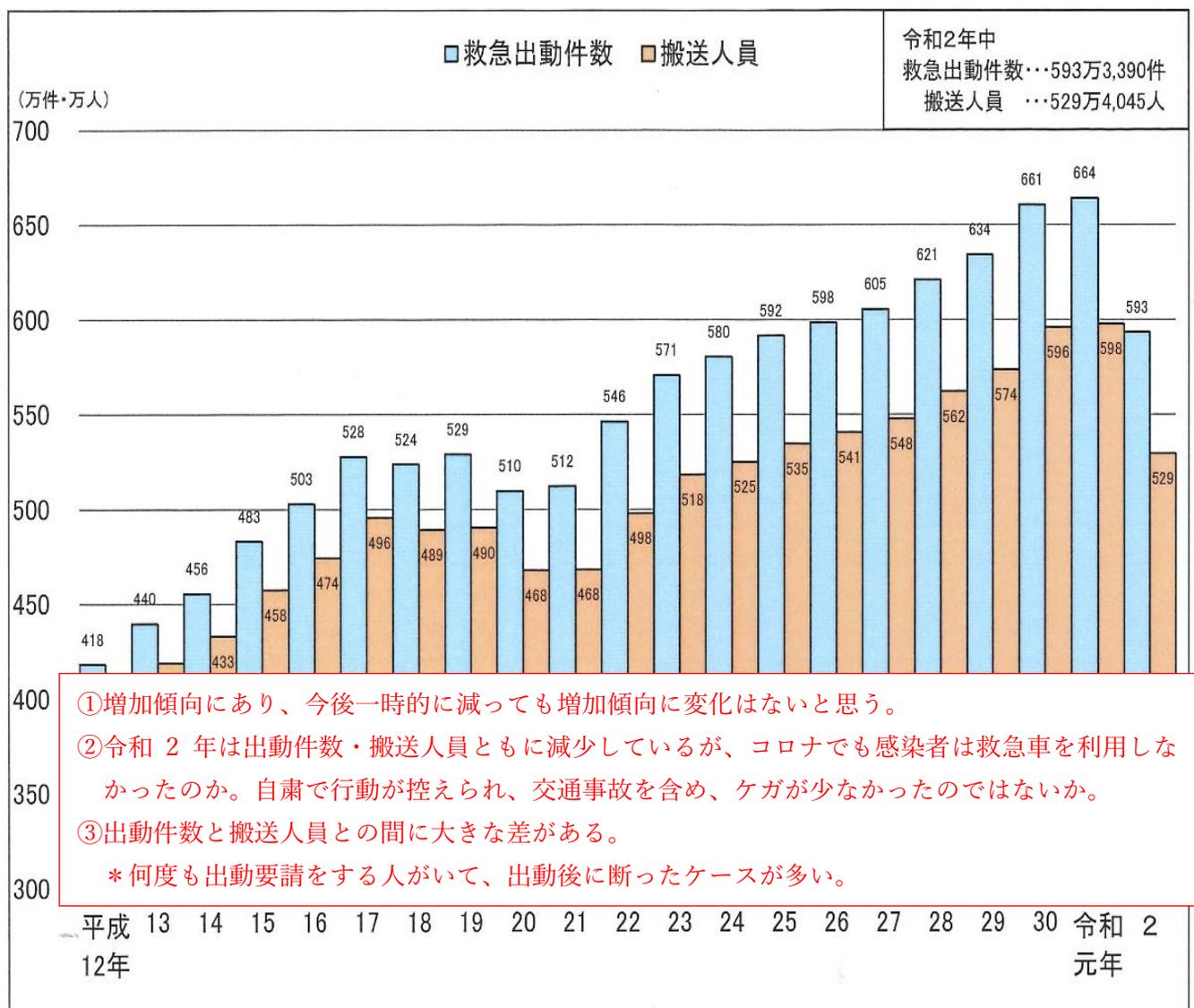
- 考えるヒント
- ①全体を見て何が多いか。それはどの程度を占めているか。
 - ②推移を見て感じることは何か。その背景には何があるか。
 - ③高齢者の救急出動要請が多い理由は何だと考えられるか。
 - ④ほかにどんな資料があると考えが深められるか。

- ② ①有料化すべきだと思う人は、その理由と有料化すべき対象や金額を提案しましょう。ちなみに、救急車を1回利用すると約45,000円かかるそうです。また、高齢者から費用を徴収することに反対する意見について反論もしましょう。
- ②有料化すべきではないと思う人も、その理由を書き、有料化以外に「適切に利用を促す方法」があったら提案しましょう。特に、このまま増加した場合、どうなるかも考え、その対策を書くようにしましょう。

- 1 下のグラフのように救急車の利用が増加していることが問題となり、数年前に「救急車を有料化した方がよい」という議論が起きました。あなたならどう考えるか、他のグラフを参考に自分の意見をまとめなさい。

* 資料は「令和2年中の救急出動件数等(速報値)の公表」消防庁より

図1 救急自動車による救急出動件数及び搬送人員の推移



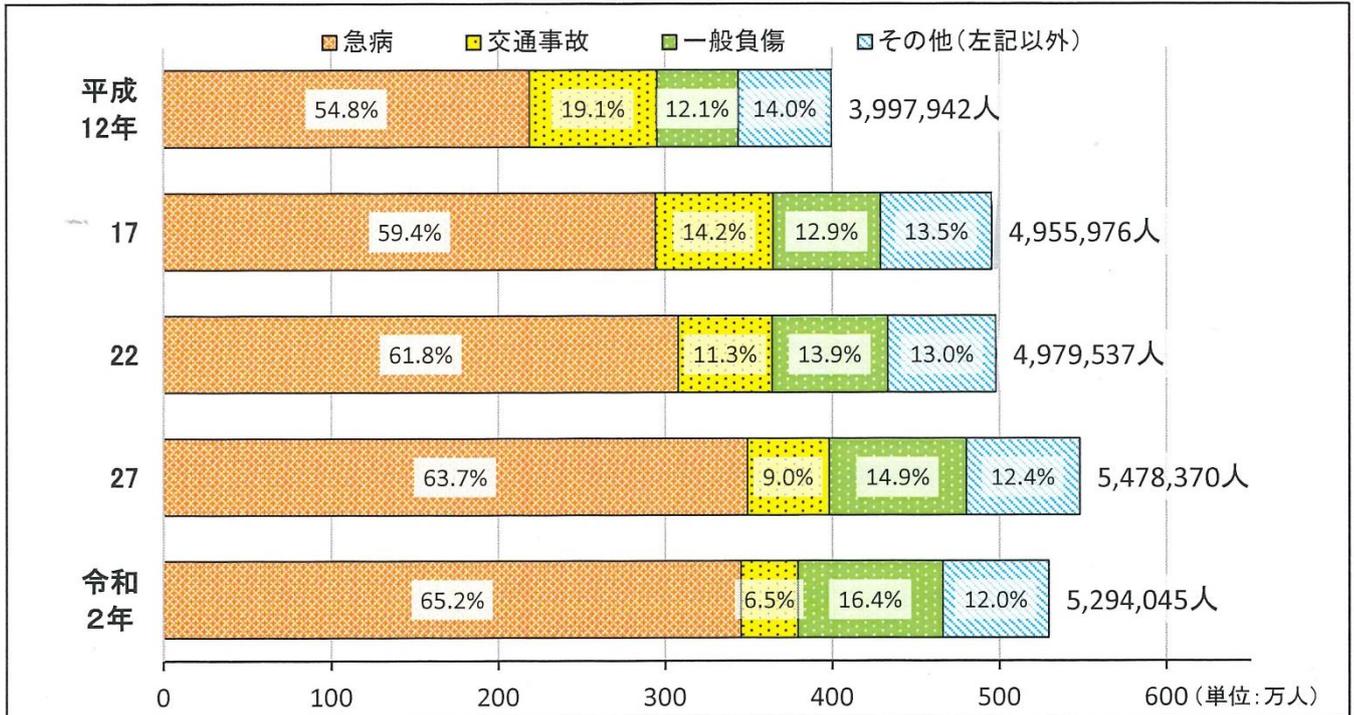
考えるヒント ①まず全体の傾向を大まかにとらえよう。

②令和2年に出動件数・搬送人員ともに減少しているのはなぜか。

ちなみに、平成20・21年に減少したのは消防庁が適正利用を呼びかけた成果だと考えられている。ん？「適正利用」ってどういうこと？

③出動件数と搬送人員数とに分けて集計しているのはなぜか。

図2 事故種別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移



※ 割合の算出に当たっては、端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合がある。

* その他には、医師の移動や機材の搬送などが含まれる。

考えるヒント ①全体を見て、何が多いか。それはどの程度を占めているか。

②推移を見て、増えているもの・減っているものは何か。

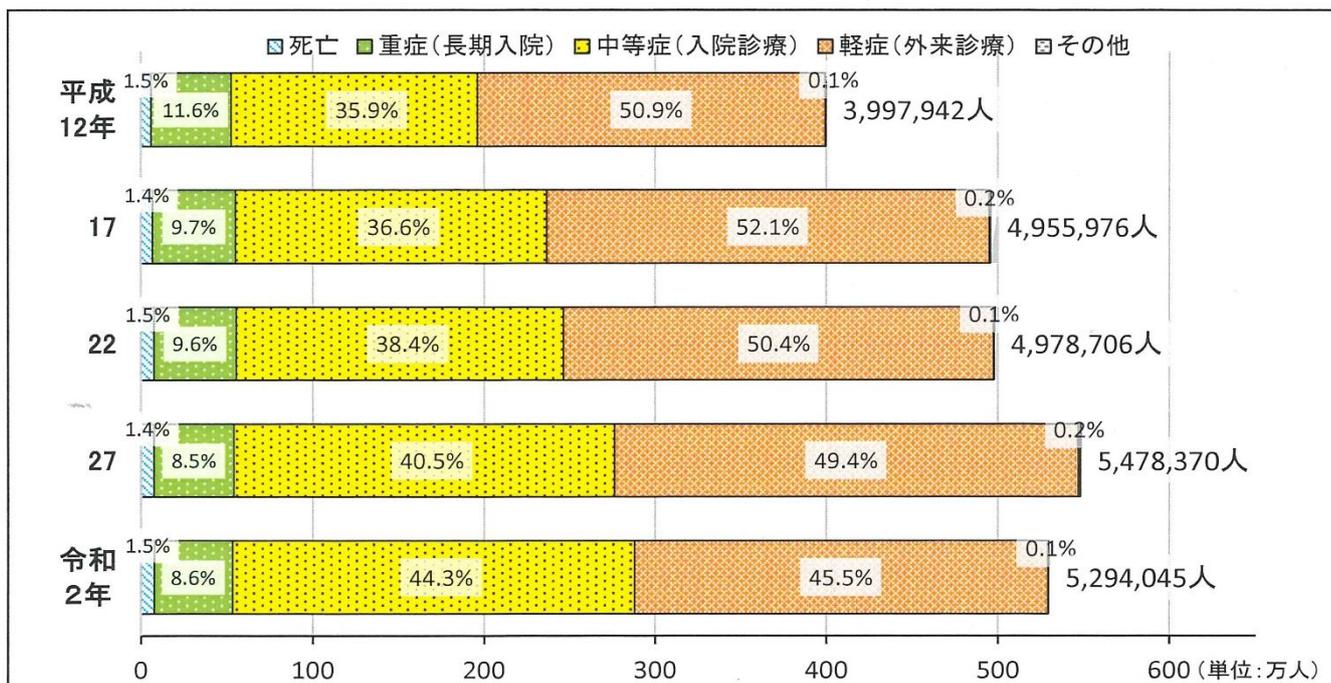
その原因は何だと推測されるか。

- ①全体として急病人が過半数と多く、かつ、少しずつその割合も増えている。
- ②その割合は20年で約10%も増えている。
- ③反対に、交通事故の占める割合は20年で19%から6%と約三分の一に減っている。
- ④急病人が増えたのはなぜか、この段階では高齢化という予想を立てるのは難しいかもしれない。
- ⑤交通事故の方は、安全対策が進んだことを挙げる生徒がいるかもしれない。

内閣府では以下の要因を挙げている。

- ・シートベルトの着用
 - ・高速走行（スピード違反）の減少
 - ・飲酒運転事故の減少
 - ・歩行者の法令順守
- } いずれも厳罰化

図3 傷病程度別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移



1 割合の算出に当たっては、端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合がある。

2 傷病程度の定義

死亡 : 初診時において死亡が確認されたもの

重症(長期入院) : 傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

中等症(入院診療) : 傷病程度が重症または軽症以外のもの

軽症(外来診療) : 傷病程度が入院加療を必要としないもの

その他 : 医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、もしくはその他の場所に搬送したもの

考えるヒント ①全体を見て、何が多いか。それはどの程度を占めているか。

②割合を見て意外に感じる事・理解に苦しむことはないか。

①中等症と軽傷が多く、全体の約90%を占めている。

②最も多いのが軽症で全体の約半分を占めている。

③軽症で救急車を呼ぶ理由が分からない。

どんな人が救急車を呼ぶのか。

軽傷ならタクシーを使ったり、家族に車で連れて行ってもらったりすればいいのに。

④救急車の利用を有料化するのもいいのではないか。

⑤海外ではどうしているのだろうか。

*海外の事例

ニューヨーク有料基本料金25,000円1マイルにつき600円加算

ロンドン無料

フランクフルト有料22,000円~73,000円

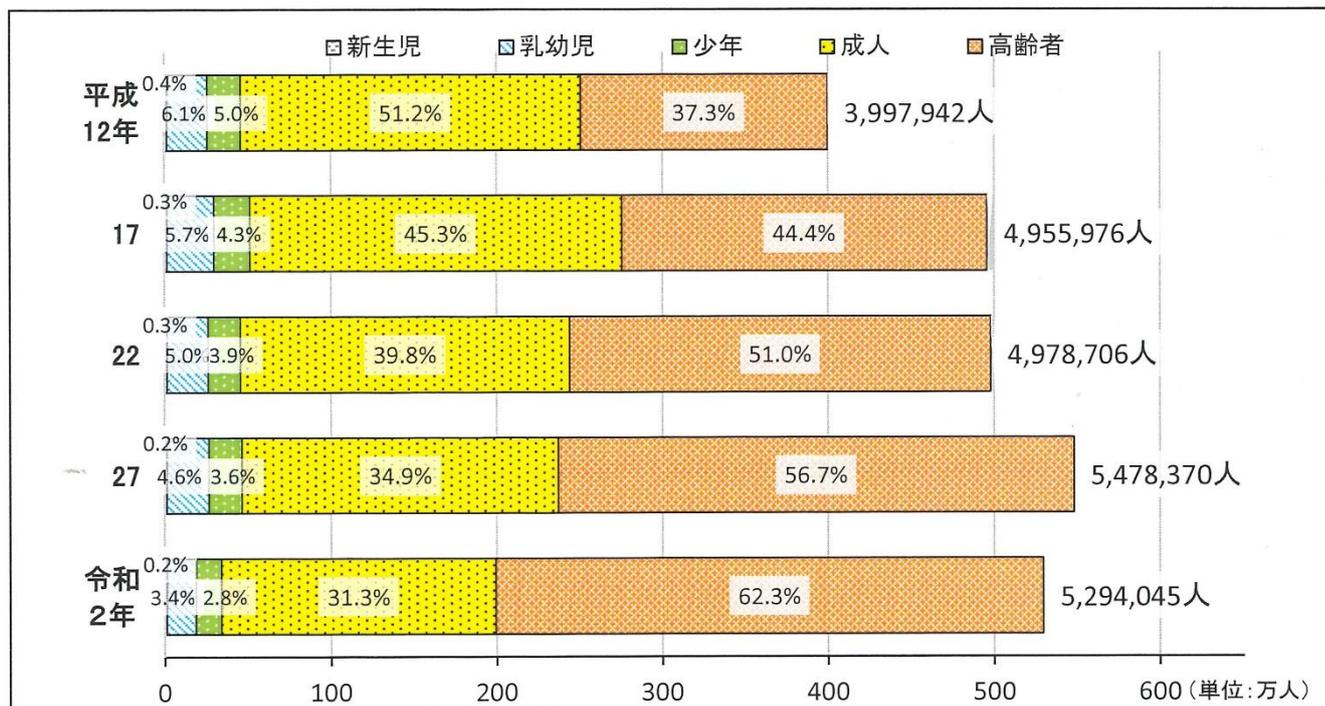
パリ有料30分あたり23,000円

シドニー有料11,000円1kmにつき300円加算

ローマ無料

(1996年 AIU 保険会社の調査による)

図4 年齢区分別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移



- 割合の算出に当たっては、端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合がある。
- 年齢区分の定義
 新生児：生後28日未満の者
 乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者
 少年：満7歳以上満18歳未満の者
 成人：満18歳以上満65歳未満の者
 高齢者：満65歳以上の者
- 東日本大震災の影響により、平成22年は陸前高田市消防本部のデータを除いた数値で集計している。（図10も同じ）

- 考えるヒント
- ①全体を見て何が多か。それはどの程度を占めているか。
 - ②推移を見て感じることは何か。その背景には何かがあるか。
 - ③高齢者の救急出動要請が多い理由は何だと考えられるか。
 - ④ほかにどんな資料があると考えが深められるか。

- ①高齢者の占める割合が多く、令和2年には全体の約60%を占めている。
 高齢者が占める割合は年々増加しており、1.6倍になっている。
 割合から計算すると、平成12年の約150万人から令和2年の約330万人と人数では180万人も増え、2倍になっている。
- ②高齢者の利用が増えたのは高齢者自体が増えたからではないか。
- ③高齢になるとそれだけ病気になりやすいからではないか。
 高齢者はすぐに重症化するので軽傷の段階でも呼ぶのではないか。
 軽傷なら病院へ家族に連れて行ってもらえばいいのに？
- ④高齢者だけで住んでいる人はどれぐらいいるのだろうか。
 * これに関する資料は次頁に掲載

② ① 有料化すべきだと思ふ人は、その理由と有料化すべき対象や金額を提案しましょう。ちなみに、救急車を1回利用すると約45,000円かかるそうです。また、高齢者から費用を徴収することに反対する意見について反論もしましょう。

② 有料化すべきではないと思ふ人も、その理由を書き、有料化以外に「適切に利用を促す方法」があったら提案しましょう。特に、このまま増加した場合、どうなるかも考え、その対策を書くようにしましょう。

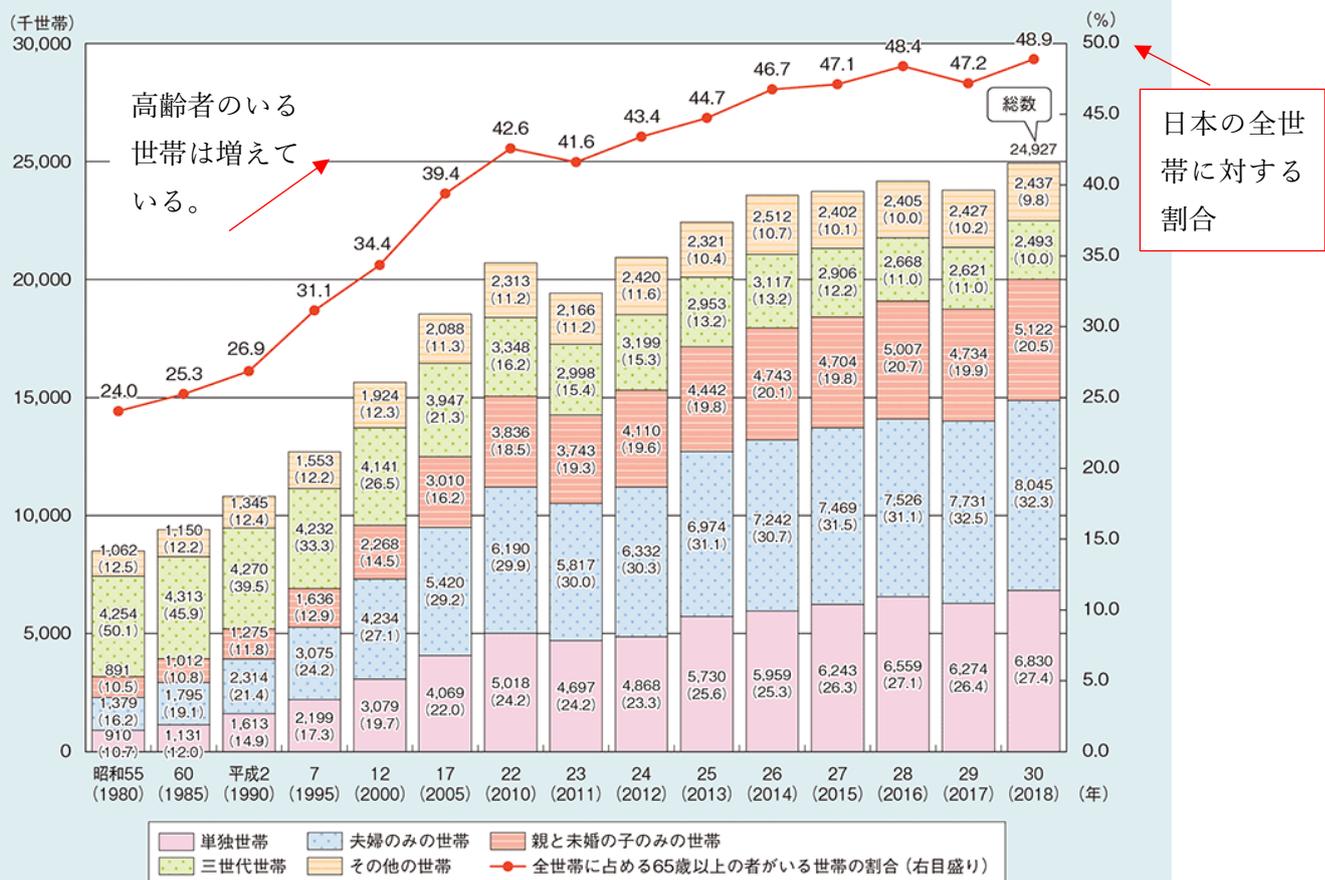
以下は前ページに関する資料（高齢者の世帯構成に関する令和2年版の内閣府の資料）

① 高齢者がいる世帯が年々増えている。（図の赤線のグラフ）全世帯の49%に高齢者がいる。

② 2018年で、高齢者がいる世帯の中で、高齢者一人の世帯が27.4%、高齢者夫婦の世帯が32.3%もあり、高齢者世帯の60%を占めている。

この資料から、高齢者一人で病院に行くこと、高齢者が高齢者の病人を病院へ連れていくことは容易ではないことがわかる。

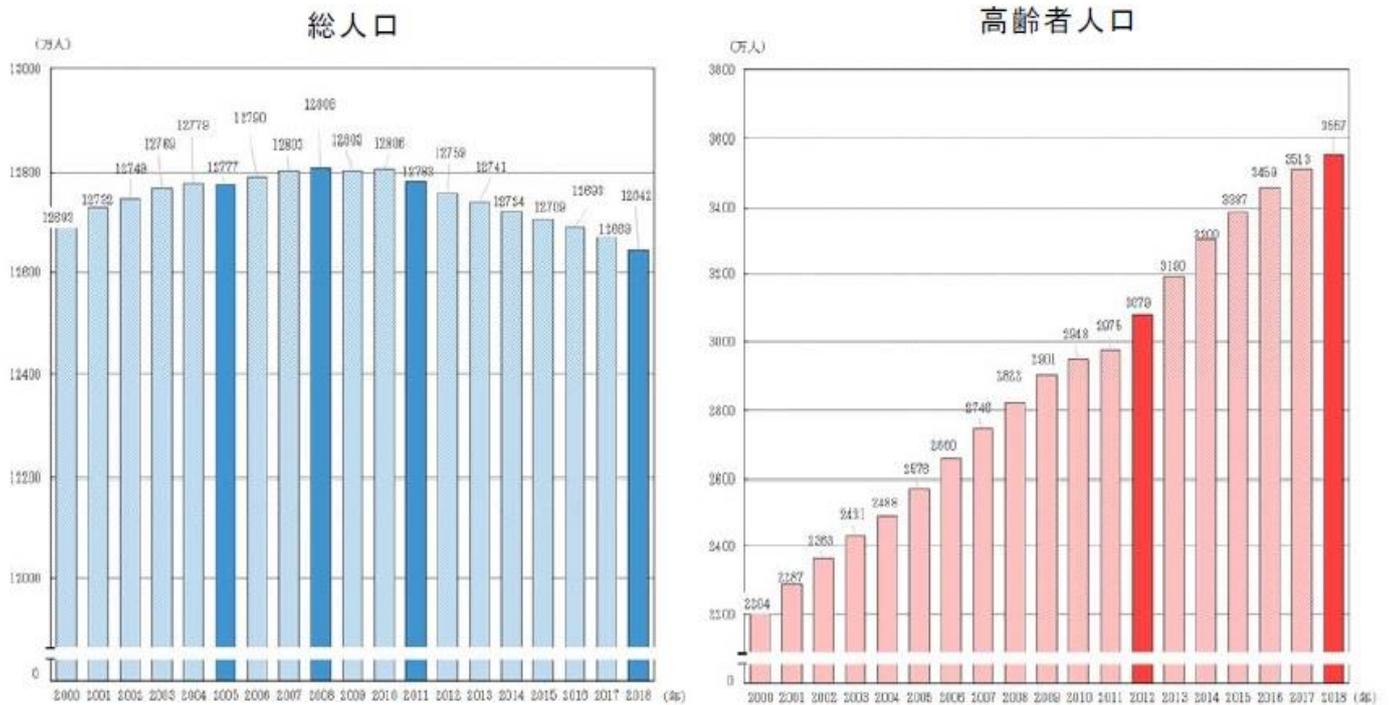
図1-1-8 65歳以上の者のいる世帯数及び構成割合（世帯構造別）と全世帯に占める65歳以上の者がいる世帯の割合



資料：昭和60年以前の数値は厚生省「厚生行政基礎調査」、昭和61年以降の数値は厚生労働省「国民生活基礎調査」による
 (注1) 平成7年の数値は兵庫県を除いたもの、平成23年の数値は岩手県、宮城県及び福島県を除いたもの、平成24年の数値は福島県を除いたもの、平成28年の数値は熊本県を除いたものである。
 (注2) () 内の数字は、65歳以上の者のいる世帯総数に占める割合 (%)
 (注3) 四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

高齢者人口が増加している実態を知らない生徒はいないと思うが、念のため全人口の推移と高齢者人口の推移を表すグラフを載せておく。(総務省統計局)

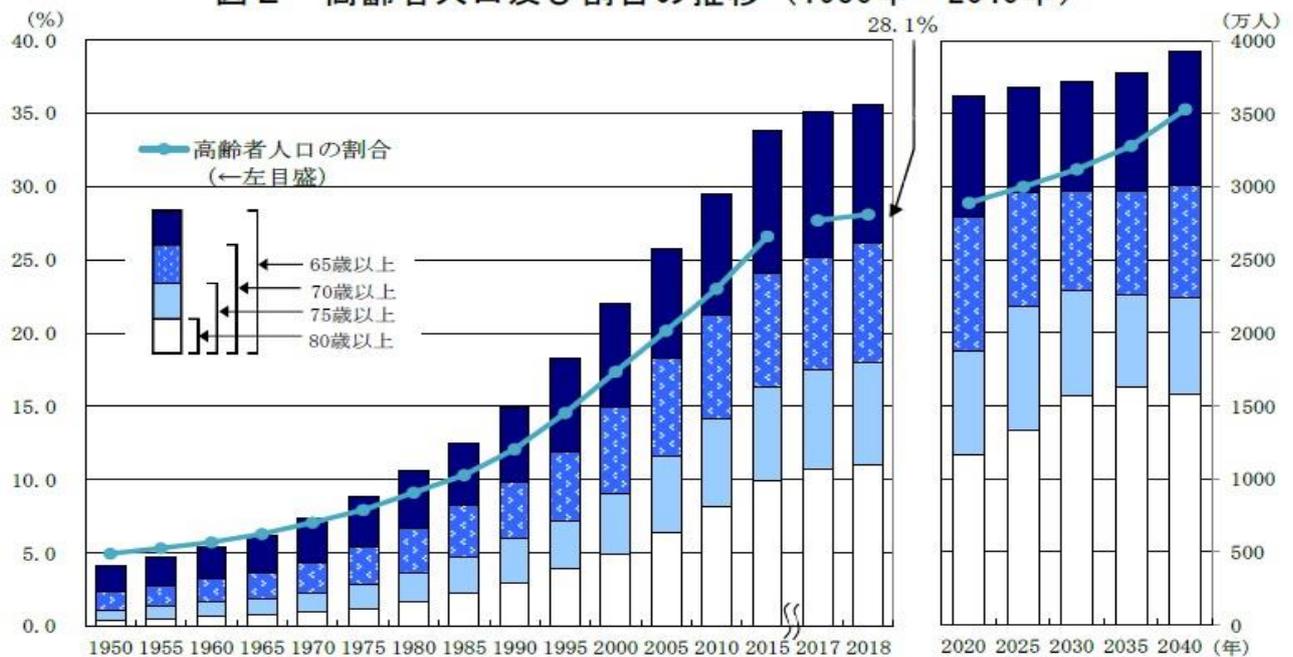
図1 総人口及び高齢者人口の推移 (2000年～2018年)



資料：2000年、2005年、2010年及び2015年は「国勢調査」、その他の年は「人口推計」

注) 2017年及び2018年は9月15日現在、その他の年は10月1日現在

図2 高齢者人口及び割合の推移 (1950年～2040年)



資料：1950年～2015年は「国勢調査」、2017年及び2018年は「人口推計」

2020年以降は「日本の将来推計人口（平成29年推計）」出生（中位）死亡（中位）推計（国立社会保障・人口問題研究所）から作成

注1) 2017年及び2018年は9月15日現在、その他の年は10月1日現在

2) 国勢調査による人口及び割合は、年齢不詳をあん分した結果

3) 1970年までは沖縄県を含まない。